

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4071401188
法人名	医療法人 康整会
事業所名	グループホームツウハーツ (ユニット名 こもれび)
所在地	福岡市早良区次郎丸5丁目18番28番
自己評価作成日	平成24年2月21日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人福岡県介護福祉士会
所在地	福岡市博多区博多駅前中央街7-1シック博多駅前ビル5F
訪問調査日	平成24年3月16日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

母体の整形外科医院の協力の下、入居者の残存機能の維持向上に向けたリハビリを定期的に行っている。
各ユニットに看護職員を配置し医療機関との連携を図り終末期ケアにも対応している。
運営方針のひとつでもある一人一人の個性を大切に寄添い、見守りを行いながらゆったりとした生活を営めるようなケアを実践している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

遠くに山並みが広がり、都市から離れた閑静な街の中に医療法人が経営する高齢者介護複合施設のツウハーツがある。1階がデイサービス、2階、3階、4階が3ユニットのグループホームになっており、周囲には広い駐車場があるため、近隣からは有事の際の協力場所にと要請があっている。介護と医療の連携に力を入れている。特に看取り介護は、母体の医療機関と連携し、家族が望む住み慣れた場所で、馴染みの人たちと終末が過ごせる体制作り職員全員で取り組んでいる。今までにも多くの看取りを行って、利用者や家族との信頼関係が築かれており、これからも今まで以上に地域から期待される事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 <input type="radio"/> 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	常に運営理念、運営方針を基に行動するよう職員個人の名札(裏)に携行している。	「自己決定・社会参加・個別性の尊重・地域とのふれあい・医療と福祉の連携」を盛り込んだ理念が提示されている。職員の名札の裏に理念を明記し自己確認している。朝礼での唱和や月一回の全体会議では職員全員が、理念の理解を深め実践に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎月、地域の公園掃除に参加している。ボランティアによる演奏会、実習生の受入、学生の職場体験を受入れている。昨年初めての夏祭りを開催し、地域の小学生の太鼓演奏や年末の餅つきに同団体の子供たちを招いた。	職員が町内の清掃や、防犯パトロールへ参加し地域との関係づくりに努めている。中学生の実習の受け入れや、散歩での近隣とのふれあいを通して地域とは日常的に関わりを持っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域運営推進会議を通じ情報交換を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	日常のサービスの報告、行事報告、予定の周知をすることで、ボランティアの提案を受け、受け入れを行った(和太鼓演奏、餅つき)。	2ヶ月に1回開催の会議には、包括支援センター職員・行政担当者・民生委員・町内会長・家族らが参加し、現状報告や意見交換している。地域住民の避難場所への協力要請やAEDの貸し出し依頼等、話し合いが行われている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域運営推進会議に市担当者、地域包括支援センター職員の参加があり情報交換を行っている。	市の集団指導での意見交換や包括支援センターからの利用者の紹介、ケースワーカーの訪問等で市町村との連携ができています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービスにおける禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	個々の状態を観察、把握し寄添い、見守るケアを実践し拘束をしないケアを心掛けている。	全体会議では身体拘束をしない取り組みについて学習している。エレベーターは自由に出入りできるが駐車場前の玄関は施錠している。出かけるようとする利用者には、職員が寄り添って近くを散歩したり、デイサービスで過ごしなが見守っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員研修のカリキュラムに取り入れ理解を深めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員研修のカリキュラムに取り入れ理解を深めている。	年2回、人権学習と合わせて勉強会を実施している。現在までに利用者はいないが、必要に応じて対応できるように職員は学習会に参加し、制度の理解に努めている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	事務職員立会いのもと、質疑を交わしながら十分な説明を行っている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置や、面会時に家族と対話し意向を酌みだしている。	意見箱の利用者はいないが、職員は家族の訪問時にいつでも話が聞けるように対応している。歩行訓練を増やしてほしい、食事摂取に関すること、夏祭りへの意見等、家族の要望に応じている。家族には取り組み状況を報告している。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	GH会議の中で意見交換を行い、業務改善をし、運営会議において結果報告及び新たな方向性や問題点の解決方法を話し合う。	管理者と職員の信頼関係が築かれている。いつでも気軽に意見が言える雰囲気が出ていて、貴重な意見が運営に活かされている。職員からの加湿器設置の提案にも職員間で検討し、直ぐに取組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務実績、勤務状況、自己啓発により正社員登用など個々の資質向上によって勤務条件改善している。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮し生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	採用に際して年齢・性別による可否の決定はしていない。 有給休暇など希望する休日が取得できるよう配慮した勤務シフトを作成している。	採用に関しては適性を重視し、性別や年齢は対象としていない。採用後は職員的能力に応じて働きやすい環境づくりに努めている。研修参加や資格取得においても積極的に応援できる体制ができている。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	職員研修のカリキュラムに取り入れ理解を深めている。	年間行事プログラムの中に月一回職員研修を取り入れており、人権を重視した学習を行っている。毎日の接遇のなかでも職員の言葉掛けや行動に対しては継続的な教育や啓発がなされている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員研修を毎月開催しスキルアップに努めている。外部研修への参加、資格取得へのバックアップを行い個々のレベルアップ、次世代育成に努めている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修に参加した際には他事業所とのネットワーク作りを心掛け新しい情報収集に努めている。昨年度には近隣のGHの地域運営推進会議に出席し意見交換を行った。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	傾聴、受容の姿勢で、本人が望む生活に近づけるよう、新しい環境に馴染めるようコミュニケーションを十分に取りながら援助している。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前面談の情報を基にサービスを提供し、気づきがあれば連絡を密に取りながら、報告・相談を取りながら信頼関係の構築に努めている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前面談の情報を基に寄添い、見守るケアを実践し、言葉以外のサインを見逃さないように対応している。新しい発見があればカンファレンスにて検討し介護計画に反映させている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	残存能力を重視し、今できることに着目し、寄添い、見守るケアを提供している。一緒に取り組み、一緒に笑う生活を目指している。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	電話連絡、面会時に日頃の様子や変化を報告し、また家族からの要望を取り入れ関係が途絶えないように心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族とともに外出される方もある。友人の面会はプライバシー保護の観点により入居時に家族の確認をとり対応している。	入居前の馴染みの場所や買物には職員が同行している。県外のお墓参りや美容院には家族の協力で実施している。友人の訪問には家族の事前の確認をとって、できるだけ関係が途切れないように支援している。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日常生活の場であるリビングの座席は入居者同士の関係を保てるよう配慮している。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された後も、相談があれば随時対応する旨を説明している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で本人の意向を踏まえ自己決定ができるよう促し働きかけている。	契約時に本人や家族から意向や希望、生活歴等を聞き取っているが、日々接する中でも思いや要望を把握するようにしている。意思表示が困難な場合は、本人の思いが引き出せるような機会づくりを工夫したり、表情や動作から思いを汲み取るようにしている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前面談の情報を基にサービスを提供していく中で、個々の会話や家族からの話から把握するように努めている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の残存能力、心身の状況の変化を把握した上でサービスを提供し申し送りを徹底し情報を共有している。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族との対話でニーズを把握し、カンファレンスを開催し立案している。	居室担当者は決めているが、毎月のカンファレンス時に、一人ひとりの利用者について全員でケアの振り返りや気づきを話し合い、家族が訪問時やかかりつけ医への受診時に意見等を聞き計画作成担当者が介護計画書を作成している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	全職員が情報を共有し新たな気づきがあればカンファレンスで取り上げ介護計画に取り入れる。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	母体の整形外科、併設の特定施設、通所介護、住宅型老人ホームと連携し共同で行事を計画している。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域運営推進会議と通じ、地域より防災時の協力体制について検討している。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族、本人の希望があれば従来のかかりつけ医を継続している。母体の整形外科医院との連携にて医療連携を図っている。	本人や家族の希望を大切にしているが、母体が病院で24時間対応と週3回の往診があることから、殆どの方が此処の病院に変更している。1名の利用者は他の病院であり、受診時は、家族が同行できない場合は職員が同行し、結果の報告を家族にしている。緊急時は法人の医師が往診している。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	各ユニットに看護有資格者を配置し自ユニットに不在時には協力でききよう情報交換を行っている。定期的な看護会議にて他部署との協力体制を取っている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中には管理者、看護師が定期的な訪問や主治医、SWから情報収集に努めている。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期を迎えても慣れ親しんだ施設での看取りを希望されるケースが多くなってきた。施設でできる対応を家族へ十分に説明し同意を得て対応している。医療機関の医師へ情報提供し、医師と家族の話し合いの場を設けている。	医療機関との連携体制が良く、職員も家族や利用者が希望すれば、是非最期まで看取りたいとの思いであり、これまでも多くの希望に応え看取りをしている。家族の宿泊希望があれば、食事や寝具等も提供している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	看護師が講師となりAEDの使用、心肺蘇生法(消防局より人形を借用)の技術研修を実施した。 施設全体の看護師と連携を図り急変時、緊急時に対応できるよう情報交換を行っている。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回消防訓練を実施。消火栓を使い実際に放水し、有事の際誰しもの使えるように訓練している。	消防署の指導も含めて、年に2回火災を想定した避難誘導訓練を実施している。また、地震等の災害に備えて食品を1週間相当備蓄しており、飲料水用貯水タンクの設備もある。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人に応じた声かけ、視線を合わせ傾聴し尊厳や人格を尊重するよう心掛けている。	一人ひとりの個性を把握し、誇りやプライバシーを損ねないケアに努めている。失禁時の声掛けやトイレ誘導時は周囲に聞こえないように耳元でそっと声掛けしている。居室での会話は、家族の呼びかけと同じように愛称で対話することで笑顔が見られ、周囲との兼ね合いも見ながら個々に合った対応をしている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	常に観察し言葉でないサインを見逃さず共感的に接し、自己決定ができる様に配慮している。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴拒否があれば無理強いせず、時間を代えて案内するなど個人のペースに合わせている。唄や体操のレクリエーションは自由参加としている。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問理美容を利用し好みのスタイルにしている。中には家族と行きつけの美容院へ行かれる方もいる。日常着は好みものを家族に準備してもらう。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員も一緒に食卓を囲み食事をしている。自発的に配膳・下膳を手伝って下さる方もいる。	利用者のできる能力に応じ、茶碗洗いや、テーブル拭きをしたり、おやつ作りを職員と一緒に楽しく作っている。職員も同じテーブルに着き、同じ物を一緒に摂食している姿が自然で家族的である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士の指導管理の下栄養管理を実施。個々の状態に応じた食事形態を用意している。水分補給は食事時間以外にもお茶やおやつ時間を設け水分確保している。嚥下困難な場合にはお茶ゼリーを提供する		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、見守り、介助で実施している。定期的な訪問歯科の往診があり必要時には治療を受けられる体制を構築した。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を記入し個々のパターンの把握に努め、トイレ誘導、介助を実施している。	一人ひとりの排泄記録を表にして排泄のパターンを把握している。定期的なトイレ誘導や声掛けにより、失禁の回数が少なくなったり、リハビリパンツの利用者が布パンツに改善する等、排泄の自立に向けた支援を行っている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	自然排便を基本とし、適度な運動、規則正しい食事、水分量の管理により便秘予防に努めている。困難時には医師の指示の下下剤の服用にて対応する。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	個々の体調と希望により実施している。状況に応じて連日の入浴にも対応している。	希望があれば、毎日の入浴も可能であるが利用者の体調や希望により、少なくとも週2回は入浴するようにしており、体調が優れないときは足浴や清拭を行なっている。入浴を拒まれる時には、無理強いせずに時間を置いたり、声掛を工夫し入浴が楽しめるよう配慮している。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間の睡眠を確保できる様に午睡時間に配慮している。無理強いして起きることは避け、本人の希望にていつでも休めるよう配慮している。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬手帳、薬剤情報を活用し処方薬の確認をしている。処方日に薬剤師管理にて整理する。また副作用の有無、症状の経過を報告している服薬時には日付、名前を読み上げ確認し介助する。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴を把握し楽しみ役割を提供し活力ある生活ができるよう援助している。		
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近隣へ散歩や季節の花を見学にて出かけている。家族の面会時に外出に協力がある。	家族の支援で定期的に外出して食事や映画を楽しんでいる方がいたり、職員と一緒に西部運動公園に出かけたりしているが、日常的な外出までには至っていない。	一人ひとりの希望にそった外出支援は、職員体制の調整等が大変なところではあるが、今一度、母体施設や家族、近隣住民等の協力も得ながら、日常的な外気浴を兼ねた散歩や、季節の花見等の実施に向けて検討する機会を持つことを期待したい。
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	施設管理し所持、使用することはない。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望により、家族の了解を得て電話を繋げている。新年には家族年賀状を出し家族から喜びと驚きの声が寄せられた。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	常に清潔を心がけ危険な物を置かないようにしている。季節感を醸し出す飾りつけを工夫し情緒的に訴えるよう配慮している。	広がりリビングにはソファやいすが置かれ自由に過ごすことができる。また、一角には腰掛の高さの畳間があり利用者が洗濯物を畳んだり、座りたいときに利用している。季節の花が飾られ、廊下や壁には利用者と職員とで作成した飾りつけもあり居心地のよい共有空間になっている。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	いつでも休めるようソファなどを配置、畳スペースを設けゆっくり寛げる空間を作っている。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具などの持込を依頼し、住み慣れた環境に近づけるようにしている。	ベッドはホームの備品であるが、希望があれば持ち込みも自由である。それぞれに使い慣れた馴染みの家具や家族の写真を飾ったり、好みのぬいぐるみが置かれたりして、居心地良く過ごせる居室となっている。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	無理強い、否定はせず、見守り寄添い、本人の思うように生活ができるよう配慮している。		